

第48回 シュレーゲルアオガエル

カコちゃん
ショウくん かほがたナルドレン



日本に生息するカエルでアオガエルの名前が付いているのは、沖縄を除くと2種だけです。このうちモリアオガエルは有名ですが、もう一つの種、シュレーゲルアオガエルについては、初めて名前を知った人からは、いつも「それって、日本のカエル？」といった反応が返ってきます。

学名は、*Rhacophorus schlegelii*で、そのまま「シュレーゲルさんのカエル」という意味です。このシュレーゲルさんというのは、ドイツ人の動物学者でヘルマン・シュレーゲルという人のことです。オランダのライデン王立自然史博物館館長だった人で、日本の多くの両生類、爬虫類を新種記載しています。その功績を称える意味で、アルベルト・ギュンターによりシュレーゲルアオガエルの名前がつけられました。日本にしかないカエルなのに、外来種のような名前が付いているのは、そういう理由からです。決して珍しいカエルではなく、本州、九州、四国の田んぼに普通に見られるものです。もともとの日本の名前があっても良さそうなものですが、外国人に「発見」されるまで名無しのカエルだったとしたら、それはこのカエルの生態に関係しているかも知れません。

まず、シュレーゲルアオガエルの産卵期は4～5月で、昔の稲作ではまだ田植えが始まっていない、田んぼに人が少ない時期です。さらに、産卵期に目立つ行動をする他のカエルと比べて、シュレーゲルアオガエルは、畔に穴を掘って産卵したり、昼間は穴の中に隠れていることが多く、人目に付きにくい行動をとります。また、産卵期以外の時期には、森や草地の中でひっそりと隠れていることが多く、緑の保護色をしていることもあり、一般の人からは目に付きにくいカエルです。そのため、その

存在にあまり関心を持たれないまま、名無しのカエルになったのかも知れません。

こんなシュレーゲルアオガエルですが、日本のカエルの中でも、1、2を争う美しいカエルです。また、モリアオガエルと同じく泡の巣をつくってその中に産卵するので、繁殖生態の特殊性からも興味深いカエルです。モリアオガエルによく似ていますが、一回り小さいのと、目の虹彩がモリアオガエルが赤っぽいのに比べ黄色である、吸盤が少し小さいなどの特徴があります。

河北潟地域では、なぜか河北潟周辺の田んぼには少なく、干拓地に多く見られます。どのようにして干拓地に入ってきたのかも想像をかき立てられるところですが、干拓地への進出に成功した理由としては、ヨシ原などの非産卵期の生息場所が確保しやすかったからではないかと思っています。（文：高橋 久）